50周年に寄せて

21期　越智浩一

卒業して30年近く過ぎましたが、当時の陸上部にはマイクロバスがあり、夏の練習後には、井坂先生が近くの海岸へよく連れて行ってくださいました。これがとても楽しみで、休まず練習に行ったことを懐かしく思い出します。また、夏や春の合宿は校外で行っており、練習はきつかったのですが、毎回色々な場所へ行けたことや練習後の先輩・後輩との和気あいあいとした一時が、楽しい思い出となっております。

あらゆる機会に、多くのOBから声援や激励を受けました。なかでも、4年の開校祭の時には、病気療養中の12期の土屋先輩が、わざわざ激励にこられましたが、その後まもなくして亡くなられたとの知らせを受けました。体調不良にもかかわらず、陸上部を最後まで気に掛けていただいた先輩とお会いした時の記憶が今も鮮明に残っています。

大会では、横須賀市内駅伝で、短距離要員もチームを作り参加し、長距離が優勝し4連覇達成、短距離チームも完走しました。

出場3回目の、第4回関東理工系大会では、皆のがんばりで優勝することができました。

しかし、神奈川七大学大会では、目標とした2位になれず悔しい思いをしました。

陸上部最大目標の箱根駅伝では、あの神奈川大学や関東学院大学に勝っていたのですが、予選会を通過することはできませんでした。

昨年の夏の甲子園大会では、優勝など到底無理だと思われていた北海道の高校がついに優勝しました。現役の皆さん、予選通過を信じ箱根を目指して頑張ってください。

最後に、21期部員を当時の記憶を頼りに紹介させていただきます。

飯塚君　短距離のエース、1600Mリレーでは常にアンカー、順位はいつも彼任せ。

小松君　元ボクシング部、いつも軽快・余裕の走り、そう見えたのは周囲の人だけ？。

笹岡君　いつも明るいひょうきんランナー、下級生からかわいがられた上級生。

千葉君　ど根性！途中棄権は絶対しない、突然の腹痛にも、拾った縄で腹を縛り完走。

原君　市内駅伝では4年連続区間賞、練習中、気が付いたらやり投げをしていた。

古庄君　練習では記録を目指し全力疾走、試合後は記録や結果などには無頓着。

浅葉君　快くマネージャーを引き受け、目に見えない活躍で陸上部の活動をサポート。

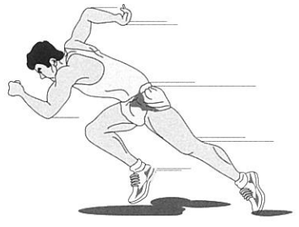
橋野君　期待の棒高跳び選手、怪我のためか？さぼりの常習犯、それでも記録は残した。

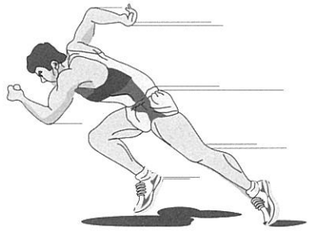
橋本君　短距離チームで市内駅伝に参加、前夜の深酒で大ブレーキ、でも襷は繋がった。

越智　軽い気持ちで青梅マラソンに参加、足に大きなマメをたくさんつくり医務室へ。

以上、18期から24期に支えられ陸上部を卒業した10名でした。







関東理工系大会７連覇達成

22期　眞　渕　　均

陸上部において最も印象に残っているのは、何といっても「関東理工系大会７連覇」である。

大会会場は我々のホームグランドというべき藤沢市善行にある県営陸上競技場。当日は朝早くから部所有マイクロバス及び指導官・研究科先輩の車に分乗しての進出、名（迷？）ドライバーのためか車酔いする者もいたとか…。競技が開始されると22期～25期部員総員が連覇に向け一丸となり、競技が進行するにつれ加点し、最終競技の1600mリレーの時点でほぼ優勝を手中に。やっと、長い１日が終わった次第である。下の写真は、その時の監督、指導官、コーチ及び現役総員での優勝記念写真である。

〔22期メンバー、総員の写真がないので辛口紹介〕

井　上（空）：短距離責任者。顎（？）で風をきる軽快な走り。

岩　松（陸）：競歩。１年の時から何故か歩くのが大好き。

大久保（海）：長距離。途中休憩もあったが徐々に距離を延長。

小　川（陸）：棒高跳。体が少々重いためポールが時々悲鳴。

上　口（陸）：長距離責任者。真面目１本の理論派ランナー。

千　田（海）：競歩。長距離から競歩への意外な転進、結果は◎。

武　市（陸）：副主将兼投擲責任者。A先輩の強い指導で成績向上。

兵　頭（陸）：走高跳。ハイジャンパー特有の体形で華麗な跳躍。

眞　渕（海）：主将。短距離。バトンがないと走れないランナー。

宮　前（空）：中距離兼マネージャー。走りたいけど業務多忙。

武　藤（陸）：長距離。内に秘めたファイトは満々、ガッツな走り。

山　口（陸）：110H。少々高いハードルもリズム感でカバー。



51年度県陸上ランキング

（飯田道雄県陸協記録部長編集）

◎は県新記録○は同タイ

＜一　般　男　子＞

順位	記録	選手名	所属	大会名
▷円盤投げ（10傑平均38㍍846、昨年度平均40㍍650）				
①	48㍍30	池野正仁	日大	県記録会
②	43㍍92	林東治	東急	東日本実業団
③	42㍍82	山田裕	旭ケ丘中教	三部対抗
④	39㍍92	石井満	市横須賀高教	国体選考会
⑤	36㍍44	石上富基	関東学院大	関東理工系大学
⑥	36㍍10	笹野博敦	日本精工	藤沢選手権
⑦	35㍍92	大久保典弘	日大高	関東７県
⑧	35㍍08	安池滋	日体大	県記録会
⑨	35㍍06	木村敏明	川崎陸協	川崎選手権
⑩	34㍍90	武市友良	防大	県大学対抗
▷１600㍍リレー（10傑平均３分25秒17、昨年度平均３分25秒44）				
①◎	３分18秒２	相田　須磨 松井・久保田	神奈川	関東７県
②	３分22秒５	徳江・中村 鈴木・酒井	東海大相模高	全国高校
③	３分24秒０	鈴木・中村 遠藤・酒井	東海大相模高	関東高校
④	３分24秒９	椎根・福田 木原・沼田	多摩高	〃
⑤	３分25秒１	河原・林 寺沢・穂谷野	希望ケ丘高	〃
⑥	３分25秒７	眞淵・井上 越智・飯塚	防大	県選手権
⑦	３分25秒８	名子・山木 松本・佐々木	港北高	〃
⑧	３分28秒４	須向・渡辺 佐藤・相田	追浜高	〃
⑨	３分28秒５	石井・二原 加瀬・早川	日大高	
⑩	３分28秒６	三富・田原 山本・佐々木	港北高	関東高校

51年度県陸上ランキング

（飯田道雄県陸協記録部長編集）

◎は県新記録○は同タイ

＜一　般　男　子＞

順位	記録	選手名	所属	大会名
▷十種競技（10傑平均5208・9、昨年度平均4946・2）				
①	５８２８	辻本仁	東大	県選手権
②	５６２９	植竹竜治	川崎北高教	〃
③	５２９４	田中誠	国大	〃
④	５２６６	越智浩一	防大	〃
⑤	５２４４	高巣周平	日立横浜	〃
⑥	５１８０	藤原靖	日大	〃
⑦	５１３３	熊谷昭好	日産座間	〃
⑧	４８９２	田中和久	防大	〃
⑨	４８５１	谷辺賢治	日立横浜	〃
⑩	４７７２	川島充郎	日大藤沢高	〃
▷5000㍍競歩（５傑平均25分16秒31、昨年度６傑25分23秒26）				
①	22分０秒４	浅野輝彦	東芝堀川	全日本選手権
②	23分37秒６	加藤雅道	東農大	関東学クラス別
③	25分29秒６	小川清一郎	日本精工	東日本実業団
④	27分04秒６	岩松正高	防大	関東学クラス別
⑤	28分10秒４	千田健一	防大	〃
▷10000競歩（７傑平均54分39秒51、昨年度８傑55分20秒82）				
①	45分37秒２	浅野輝彦	東芝堀川	国体
②	48分57秒８	加藤雅道	東農大	関東学生
③	54分02秒０	岩松正高	防大	〃
④	56分29秒２	田中登	東芝小向	県選手権
⑤	56分33秒０	千田健一	防大	関東学生
⑥	58分47秒８	福留緑	東芝堀川	国体選考会
⑦	62分12秒０	小川清一郎	日本精工	県選手権
▷20000㍍競歩				
①１時間46分49秒０		浅野輝彦	東芝堀川	関東選手権
②１時間59分01秒０		岩松正高	防大	〃
③２時間05分25秒０		田中登	東芝堀川	〃
④２時間08分24秒０		千田健一	防大	〃

３学年時の神奈川県ランキング
（神奈川新聞より）

神奈川新聞 S51.12は中学と高校のみ



１学年時の夏合宿　八戸・種差海岸にて



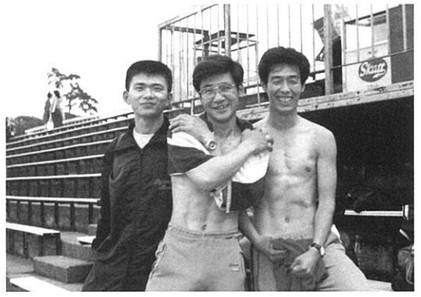
我ら青春の熱き一コマ

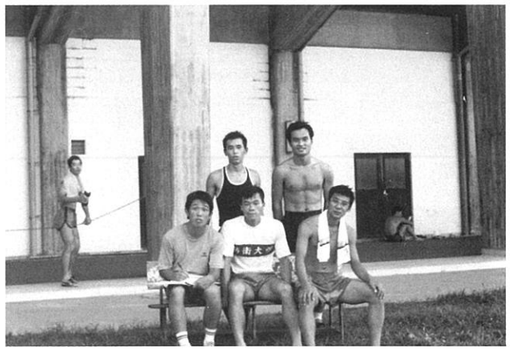
23期　有馬松順

＃23期が４学年として陸上部をリードした昭和53年当時の陸上部は、総勢約100名に達するほどの巨大な勢力を誇り、部員全員が一丸となって目標に向かい活動し、数々の戦績を陸上競技部の歴史の一コマ一コマとして刻銘に残すことができ、また継承することができた思いで深き良き時代であります。当時の我々の主な目標は、関東理工学系大会総合優勝３連覇、関東学生大会２部上位入賞、箱根駅伝予選通過が年度の三大目標でありました。関東理工学系大会は、圧倒的勢力のおかげ（？）と多くのスーパースターの活躍により念願叶って見事優勝することができました。第２・第３の目標については、戦績としては日頃の練習の成果を出し切りましたが今一歩と厳しい現実でした。しかし、目標に向って真剣に努力する意志を今日までしっかりと引き継ぐことができたことは、非常に嬉しく思うところです。

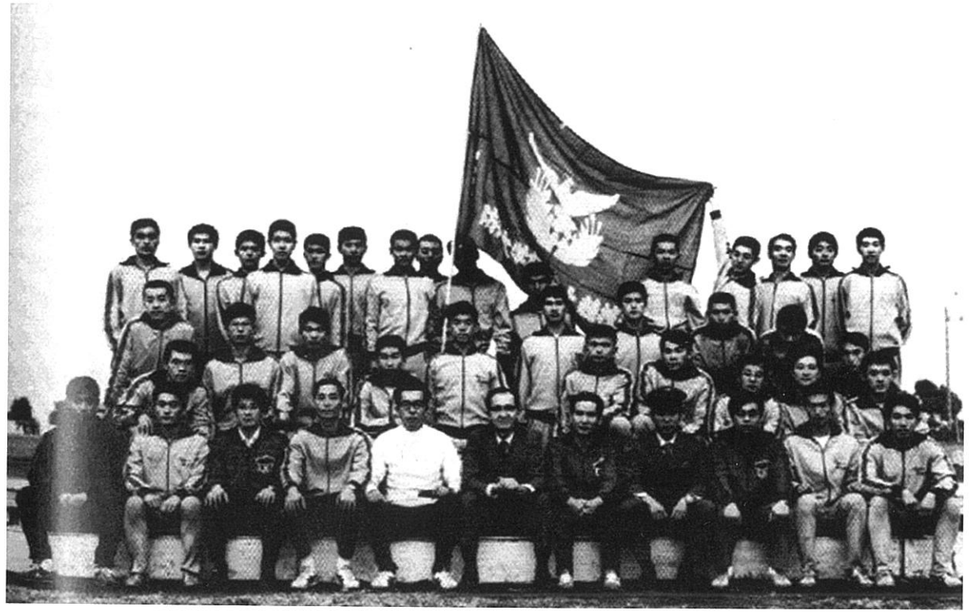
当時４年のメンバーについて、私の独断で端的に紹介したいと思います。まずは、中・長距離パート、頭脳明晰、クールで実力派の土田君、ちょっと控えめ気配り十分でみんなの潤滑油的存在の有川君、黙々努力家、やるしかないだろーと一言が似合う、男一匹義理人情の竹末君、見かけはクールだが口うるさい世話女房、しゃーねーなと言いながらみんなの面倒をみる野山君、日頃から落ち込むことを知らない明るさの持ち主、何故か女性の応援が一番多かった堀口君、控えめでコツコツ努力家、何事も頼むと断らず努力する信頼の厚い鈴木君、次は短距離・フィールドパート、優しさと明るさをモットーに後輩指導、ちょっと動きに鈍さを持っていたが戦闘機パイロットになった井出君、常に自己に厳しさをもって真剣に取り組む、だけど後輩には本当に優しい小国君、走る・投げる・飛ぶ全てに対応する体作りをモットーとして取り組む明朗・実直な田中君、明るさとかけ声第一、今日もヤルゾウーの一言でみんなの気持ち盛り上げ役の宮本君、笑いと明るさ天下一品の持ち主、軽すぎる程の明るさにも男の意地とロマンを見せる反怖君、最後は、400mを走った後のケツワレに快感を感じながら、青春を感じていた有馬でした。以上23期メンバー12名の紹介と回想でした。

おわりに、50年史の記事を書くにあたって、当時の色々なことが思い出されました。その中で三井顧問はじめ多くの方々に大変お世話していただいたことに感謝申し上げます。これからも、陸上部が部員全員の青春の場として生き生きと活躍・発展してゆくことを心から祈念申し上げます。









24期　陸上競技部

24期　岩成真一



「防衛大学の陸上競技から得たこと」

昭和51年の春、一年生として運動クラブを選ぶ際、夕日に照らされてグランドを走る陸上部長距離パートの先輩方の姿に憧れて入部を決意したことを昨日のことのように思い出します。4年間の競技生活では、箱根駅伝予選会に4回出場できたことと、3000メートル障害の記録で末のほうに名前が残っていることなどが戦績でしょうが、最も大切で貴重なことは4年間走り続けたことと当時の仲間と今でも交流できていることだと思っています。

そしてこれらは、今の自分の生き方や仕事の糧になっていると強く感じています。　（西山隆二）

回顧「理工系５連覇ならず！記録のルーツ！広報！赤福！」

昭和54年関東理工系大会は、総合得点同点、1位2位の人数同数、3位の数が2人少なく総合2位で5連覇ならず。次年度5000m競歩を新種目に加え首位奪回！部室に眠っていた試合の記録表、プログラムの記録を整理し、「走跳投歩」に年度成績、歴代キロを載せたのが現在のルーツ！月刊誌陸上競技に防大陸上部の記事を載せ広報！夏合宿で伊勢の赤福を食べたことも思い出かな！

（鈴木俊幸）

「陸上部の記憶」

長距離をやっていましたが、陸上部でのことは今でもよく覚えています。いろいろありましたが、楽しく充実した日々でした。次のような思い出があります。

・変な先輩がいて、下ネタが得意でおもしろかったこと。
・2年生の時に30kmの練習で、途中でバテてしまって、先輩についていけなくなり、走れなくなって最後は歩くこともできなくなったこと。
・三重の伊勢での夏合宿で、練習後の競技場から宿舎への帰りに食べた伊勢名物の赤福とお茶がおいしかったこと。　（松本秀史）

「陸上部の思い出」

私は陸上部に、2年になってから入部しました。特に取り柄もなく陸上競技の経験があった訳でもないのですが、体力増進のためにと思って入部しました。今、自衛隊生活を振り返ってみると、クラブ活動を通じ体力・気力の充実が十分図られ、じ後の自衛隊生活を支える上での糧となったものと感じています。そんな中で、今一番記憶に残っているのは、2年の夏合宿、伊勢神宮の近くだったと思います。暑い日に一生懸命に走ったことと、伊勢名物「赤福」と冷たいお茶が、なぜか強く印象に残っています。とにかく、クラブ活動はよき先輩、同僚に恵まれて厳しい学生生活の中、唯一気の休まる時間だったことが思い出として残っています。　（水口光幸）

「“こつこつ”と」

今から四半世紀以上前に防衛大学校の門をくぐった。「全員運動系クラブに入部！」との厳命（？）で、どこに入るか迷ったような気がする。高校時代にろくに運動もせず、さらに一年浪人後では到底体力に自信もなく、単に中学校時代にやっていたという理由で陸上競技部に入った。種目も同じく「長距離」。1年やっても芽が出ず、「競歩」に転向した。こつこつと歩き続け、4年時に関東選手権で3位に。4年間で唯一の表彰台だった。「こつこつ」が、才能の無い私に表彰台を1回経験させてくれた。正直に『嬉しかった』。そして自信となった。

（小磯友紀雄）

「憧れの“国立競技場”を歩く」

競技人口の少ない「競歩」は、一応の歩きが出来ると試合に出られる。他の種目には無い魅力である。中学、高校とまともにスポーツをしてこなかった私は、入学時に陸上部員である室長の誘いに素直に従い競歩の道へ。

元々単調で退屈な練習を、室長の手前「継続は力なり」よろしく悶々と続けて約1年、第2学年の春のことである。なんと「関東インカレ」に出場できた。会場は、あの東京五輪の国立競技場である。将に、「感動」の一言。さらに3学年、4学年と続けて国立競技場を歩き、有名大学の選手とも競う事ができた。

往事を偲ぶ度に、この一番の思い出を与えてくれた陸上部の部長、監督、先輩を始め、あらゆる関係者に感謝している。　（大西康夫）

「箱根本戦出場を目指して」

今や正月の代名詞となった箱根駅伝。我々の頃は、今ほどのフィーバーはなかったものの、長距離を専門とする者、一度は走りたい「憧れの大会」であるのは今も昔も変わりはない。当時の予選会は、神大や関学は我々と同等のレベルで早稲田が時々シード落ちで走るような状況だった。その早稲田に瀬古選手（現S&B監督）がいて彼と肩を並べて走った思い出は今も忘れることはない。ただし、力の差は歴然としていたが…。

参加大学の増加、質の向上により本戦への出場が益々困難な現在、それでもなお我々が果たせなかった夢を後輩に是非託したい。　（鶴園和男）

「走・跳・投・歩」

陸上競技には様々な種目があり、それぞれの種目により、選手の性格、身体的な特徴など大きく異なる。短距離、長距離、跳躍、投擲、競歩みんな性格が異なる。加えて防大陸上部員は初心者から上級者まで様々である。

競技に対する取組み方、考え方も異なる。ところが防大陸上部はなぜかしら纏まりがあり、お互いを大切にしてきた。本当に良い先生、指導官、先輩、同期、後輩と心温かき人たちと4年間過ごせたと感謝している。結果を求めて日々葛藤。結果はどうあれ、一人一人の個性を大切にしていきたい。

防大陸上部が創部100年に向けて着実に発展することを祈念して　（岩成真一）





学生時代を振り返って

25期　酒井良幸

25期生は、防大が創立をされ、四分の１世紀が経過した理数系・文系の学生として入校しました。今思えば、「走跳投歩」に防大記録を樹立して名前を残すような輝かしいスーパースターはいませんでしたが、団結力のあるクラブ活動が実施できた期ではないかと思います。最も25期生の約半数近くは、防大に入校して、陸上競技を始めたものも多かったのも事実です。当時のグランドは、まだ土のグランドであったので、雨が降るとサーキットトレーニング又はウェイトトレーニングなどにメニューを変更して練習をした思い出があります。その当時、雨が降った場合のサーキットトレーニング場となったのが、この度、新館となるか、整備されるのかはわかりませんが、人文館だったと思います。25期生が、丁度、卒業間際だったと思いますが、全天候性のグランドに変わったと記憶しています。また、４年生となったとき、部員数は、約70名の大所帯となり、短距離・長距離・投てき・跳躍等の各パートごとの練習ができるようになり、先輩方々のお話に聞くような「箱根駅伝に予選会から部全員が、ほぼ選手であった。」ということはありませんでした。各パートは、今もそうだと思いますが、パート責任者がいて、専門誌等からの情報を得て、その当時、科学的あるいは近代的と思われるメニューを組み立てて、ほぼ毎日練習をしていました。練習成果を確認あるいは自己の記録更新のため、部外の試合に出場するとき、試合出場に必要な手続きを実施して、朝早い時間から何本かの公共交通機関を乗り継いで、試合会場に赴いて試合や記録会に出場したことが思い出されます。

この度、「防大陸上競技部50年史」を作製されると聞いて、25期生が卒業して、はや四分の１世紀が経過したのだなと痛感している次第です。現在、陸上部の「走跳投歩」では、よい成績が出ているのを垣間見ることができ、部活での思い出が回想する絶好の機会となっています。

今後、益々の防大陸上競技部のご発展を祈念致します。



当時使っていたグラウンド



練習風景



陸上部での思い出

26期　山崎裕朗

今回の投稿依頼があるまで、自衛隊を退職して久しい私には、陸上部の活動を思い出す機会は殆ど無く、もうかなりの事を忘却しています。以下の思い出話に正確さを欠く事はご容赦願います。

思い出してみると、入部してから２学年半ばまで部活動を辞めたい気持ばかりでいました。そんなある日、勇気を振絞って退部をキャプテンに申し出た時、「何言ってんだお前。ガハハッ！」と一笑に付されました。それ以上食下がる事は出来ずにいると、３年になりマネージャーを兼務する羽目となりました。その頃から練習が面白く感じる様になり、サボりがちだった土日の練習も積極的に出る様になりました。すると外出範囲も狭くなっていき、１年時は新宿、２年時は横浜、３年時は横須賀までとなり、キャプテンになった４年時は出先の多くは走水荘でした。

４年間の部活で最も大きな変化は、３年の中頃にアンツーカーのグランドが全天候型のタータンに替った事でした。グランドの工事期間中は練習が出来ないので、日頃は校内や周りの公園を使って練習を工夫していましたが、試合前の調整時期は校外のグランドや他大学のグランドを借りる為、マネージャーとしてあちこちに電話をしていました。

３年になり間もなく、防大に今まで無かった様な事態が１年生に多発しました。それは脚の疲労性剥離骨折です。点呼後に点呼靴のままランニングする事が日常だったのですが、医務室よりランニングする場合はソールが厚くて衝撃吸収性の良いジョギングシューズを使用する様に指導されました。

学生の体質の変化とグランド環境の変化は、アンツーカーのグランドでの練習メニューを見直す事となりました。反発力の強いタータンのグランドでは腱鞘炎等の故障者が増え、量から質への変化が求められました。

当時、競技初心者が多い陸上部では、関東理工系陸上競技大会での優勝を最大の目標にしていました。それまで先輩方の努力により理工系大会は４連覇しており、５連覇を目指している状況でした。こんな時に先にお話ししたグランド工事が重なり、結果的には２位。１位と２位の数は同じで３位の数が多い横浜国大が優勝した様な記憶があります。まさに惜敗でした。

この惜敗によりＶ奪還をすべく、キャプテンとして禁酒・禁煙を部員に伝えました。お陰で今でも禁煙でいる事ができ、有難く思っております。理工系大会も優勝する事が出来て、良い思い出で４年間の部活動を終える事が出来ました。

理工系大会の最後の種目は1600mリレーでした。残念ながらアンカーとしてゴールテープを切る事は出来ませんでしたが、トップの選手の背中を追いかける最終コーナーから直線のところで、今まで歴代のアンカーを務めた先輩の姿が走馬燈の様に頭の中を過ぎって行きました。

陸上競技は個人種目ですが、４年間続けてみて思う事は、周りの同期の友や先輩、後輩に支えられて頑張れたという事です。決して天性の素質に恵まれて部活動をする者ばかりでは無いのですから、記録という数字の絶対的価値よりも、個人の持っている現状のレベルからどれだけその力を伸す事が出来たか、その努力の量を評価してやれるような部活動であって欲しいと思います。

不思議と私と親しかった陸上部の仲間は、陸海空の区別に拘らず別々に退職し、今は民間人として各地で頑張っています。今でも年賀状の遣り取りは続いており、陸上部としての仲間の絆を今でも感じています。

現役の皆さんも美しき思い出と友との絆が生れる様な部活動に励み、防衛大学校陸上部の歴史の一頁にその名を刻んで下さい。陰ながら応援いたしております。







スパイクとタオルをぶら下げてグランドへ通った４年間

27期　菅野光久

当時の日記を開いた。色あせたノートには、部活のことがいっぱい。

神奈川７大学選手権、関東インカレ、夏合宿、関東理工系大会、箱根駅伝予選会、ジュニア選手権等、そして、定期試験、カッター、断郊、ダンパ、水泳大会、開校祭、体育競技会、卒研と、それにふるさとの彼女はどうしてる？も

そんな思い出のいくつかを拾ってみました。

【２学年（昭和55年）秋】

陸上競技場が土から念願のタータントラックへ改修される為、８月から12月の５ヶ月間、練習場を探し求めて彼方此方へ

９月６日（土）晴れ

山口百恵ちゃんのふるさと横須賀不入斗の市営競技場へ。百恵ちゃんが見ているようで、なんとなく頑張れました。

９月７日（日）曇り

浦賀の住友重機のグランドへ。石ころが多くてスパイクでは走りにくいな。

夜、１学年後期時の部屋会あり、横須賀中央の喫茶店「茶豆湯」待ち合わせ、部屋長24期千葉さんを囲んで横須賀ベースでステーキにワインを楽しみました。最後のアイスが旨かった。

９月14日（日）晴れ

藤沢競技場にて記録会　駄目だな

９月27日（土）嵐

人文館にて練習。狭い廊下を走ると、速くなったかなと錯覚する。

９月28日（日）晴れ

午前中フィールドホッケー場を借りて練習１周180mのトラックを書いてタイムトライアルまるで小学校の運動会だ。午後は隣のラクビー場を借りた。広々していて気持ちいいよ。

10月10日（金）

やっと定期試験が終わった。バンザイ、欠点が無いように神様お願い。来週から後期の授業か。

11月３日（月）文化の日　晴れ

神奈川県秦野陸上競技場にて関東理工系大会　防大優勝　よかった。中村さん（25期）はすごい。

【３学年（昭和56年）秋】

10月25日（日）いい天気です

今日は、自衛隊中央記念式典パレード予行、参加者は早朝３時起きでした。ご苦労様。

来週はいよいよ関東理工系大会、今日は、試合当日の時程に沿って競技練習を実施した。

ところで、来月末に期生会主催ダンパ。六本木コスモポリタンで会費1500円、女子大生寮へ電話しよう。俺のノルマは３ヶ所だ、鶴見にフェリスに有明と

11月14日（土）

川畑監督（11期生）宅へ。武野、佐藤、松岡、丸田、滝口、大塚、田村、菅野の同期８名でお邪魔した。制服でポンド前17：45集合。出るわ！出るわ！お腹いっぱいです。食べきれないくらいです。とってもおいしかった。

流石、監督の奥様、とっても美人でした。ご馳走様でした。今日来られなかった黒木、高山、岳野、佐竹、菅原、田中、山本、渡邊を連れて、またご馳走食べに行こう。

次は山根先輩（11期）宅もいいな。



【４学年（昭和57年）秋】

10月27日（水）晴れ

関東理工系大会参加者のエントリー記録を参考に各校の得点を予想。なんと１位は東京理科大85点、２位防大78点、３位慶応69点である。これではいかん、理科大に負ける、優勝できないなんていやだ。いや、出場選手全員が自己ベストを出そう。ベストコンデションで試合に臨もう。ベストタイムを出そう。そうすれば勝てる。

当日は、大会会長である土田学校長が、朝霞での自衛隊中央記念式典パレード終了後、藤沢へ駆けつけてくれる。有り難い。みんながんばろう。

10月31日（日）晴れ

藤沢競技場にて34校が参加し関東理工系大会、優勝した。東京理科大と接戦の末、勝てた。最終種目1600mリレーを残して、僅か４点差で防大リード。東京理科大が１位を取り、防大が４位以下だと、東京理科大に逆転負けになるところだった。15：50　1600mリレーがスタート。

１走松岡、２走菅野、３走畠野、４走山本。松岡は、この日すでに６本も走っている、1600mリレー予選、200m予選、準決勝、決勝（４位）、400mリレー予選、決勝（１位）と。松岡がトップでバトンを渡してくれた。このがんばりで、１位でゴールできた。

三井部長、井坂先生、川畑監督、山根先輩、小西さんありがとうございました。

11月７日（日）くもりのち雨

大井埠頭にて箱根駅伝予選会。小雨でとても寒い中、丸田を中心にがんばった選手諸君、ご苦労様。応援してくれた皆さん、ありがとうございます。OBの皆さんもたくさん来てくれました。平均71分、ほんとうに残念、11位でした。あと１つで箱根に行けたのに

夕方、走水荘にて陸上部３、４年で飲み会でした。主務の武野には本当に世話になった。助けてもらったな

11月19日（金）くもり

課外講演「海軍の伝統と気風」阿川弘之。今日こそは寝ないで聞こう

・旧海軍の特徴は視野が広いこと、ユーモアに富んでいることである
・杉田一馬は、土曜日はゴルフバックを持って出勤し・・・・ズズ。井上成美は、太平洋戦争中に海軍兵学校長となり、学校での英語教育廃止の話があったが強く反対した。・・・ズウウ。

夜、陸上部引き継ぎ会でした。28期主将は畠野、主務は福應、会計は多出村よろしく

【27期卒業アルバムの部活写真に添えた言葉です。】

春　桜が初々しい
夏　芝の緑が鮮やかだ
秋　時計台の向こうの夕焼けが美しい
冬　吐く息が照明の灯りの中に白く浮き立つ
スパイクとタオルをぶら下げてグランドへ通った４年間
ありきたりの言葉だけど、やっぱり青春の１ページでした
素晴らしい時間をありがとうございました





拝啓　小原台陸上競技場　様

28期　畠　野　俊　一

拝啓　小原台陸上競技場　様

卒業以来約20年という随分長い期間が過ぎましたが、その間なかなか満足にご挨拶にお伺いできませんでしたことをお詫び致しますとともに、この度の50周年を心からお慶び申し上げます。

我々28期生は1980年の入校で、約20名が陸上部に入部しました。入校当時の貴方様はまだ土のグランドで、パレード訓練等によって多数の短靴で踏みつけられ、雨が降ると水が溜るというような極めてお固い方でしたね。

その後数ヶ月の後に現在のようなタータントラックへの大手術が始まり（確か秋まで続いたのでしょうか）、平日の練習は校内の人通りの少ない道路や人文館の階段、土日は不入斗の陸上競技場まで練習に通いました。貴方様には申し訳ありませんが、当時の我々１年生にとっては、早朝外出（って呼んでましたっけ）の服装容疑点検が簡略されるのがたいへん魅力的に感じたものでした。

夏の合宿は、三重県の伊勢神宮そばの陸上競技場で約10日間行いました。翌年からは貴方様が見事なタータントラックとして復活されたため、我々28期生にとっては最後の伊勢合宿でした。練習後の「赤福本店」でのお饅頭とお茶の美味しかったことは未だに鮮明な思い出として残っております。

貴方様の復活後は、部員一同、腱鞘炎に悩まされながらも何とか頑張ったつもりです。我々28期の在学中は、「関東理工系大会」において４連覇することができました。また４年生の時は、ちょうど箱根駅伝の予選会において、記念大会ということで参加校数が増えたため長距離パートは必死の覚悟で練習に励みましたが、平均タイムわずか数秒差で涙を呑んだものです。しかしこれも今となってはたいへん懐かしく、そして青春の一時期を貴方様と一緒に過ごした楽しい思い出となっております。

これまで防大陸上部のために体を張って頑張ってこられた50年、本当にありがとうございました。でも隠居はまだまだですぞ。これから何十年、いや何百年、防大陸上部が存在する限り、少々の手術を施しながらも、後輩たちの面倒をよろしくお願い申し上げます。

敬　具



小原台での４年間等を振り返っての雑感

29期　渋　谷　　幹

中学・高校と短距離を主体に陸上競技部に所属した私にとって、防衛大学校に入校した際に見た全天候型トラックの真新しい輝きは、何物にも代えることはできなかった。高校時代には、この全天候型トラックで走るということは、当然県大会に出場することを意味することであり、誰もが走れるものではなかったからである。そのトラックが目の前に広がっている。４月の一ヶ月間はクラブ入部の勧誘期間であったが、真っ先に陸上競技部に入部の手続きをしたのも自然の流れであったのだろう。

陸上競技部に入部して、特に先輩・後輩とのつながりや同期生の有り難さを実感した４年間であった。下級生の時には、いつでも気軽に話し合える雰囲気の中で、上級生に悩みを相談することができた。最上級生になってからは、短距離パートの増田、長距離パートの片岡、投擲パートの後藤と各パート責任者の率先した努力の結果、何も心配することはなく本当に多くの面で助けてもらった。その反面、キャプテンとして、何ができるのか（全員の力をいかにまとめ、かつ引き出すことができるか等々）と苦労したことを覚えている。

今でも思い出すのは、小原台での真夏のグランドにおける合宿である。長距離パートを除いた他の学生は、７月の定期訓練の終了した後、８月下旬頃に防衛大学校のグランドで夏合宿をしたものである。本音を言えば、合宿が始まるまでは「参加したくないな。」という気持ちが強かったが、なぜか陸上競技部の先輩・後輩と一緒に練習をしていると心が落ち着いたものであった。これは、陸上競技部の持つ和やかな雰囲気が当時からあったからであろう。

数年前に、同期の後藤とともに、陸上競技部の納会に参加する機会があった。女子学生も入部していることもあり、我々が過ごした時期と比べると、遙かに違った雰囲気の中で学生たちが頑張って成果を出している姿を見ることがあった。その頃、同期の榛原が監督をしており、学生時代の川畑OB、山根OBや堀口OBの姿とだぶって見えたこともあり、時代の移り変わりの速さを感じたものであった。

昨年正月に、防衛大学校長距離パートの学生が箱根駅伝の関東学連選抜の一員として出場した際に、箱根へ応援に行くことはできなかったがテレビで懸命に応援したことを覚えている。やはり、学生時代４年間にわたって続けてきた陸上競技部に対する愛着があるからだろう。

結果はどうであろうとも、懸命に頑張っている姿は素晴らしいことであるとしみじみと思った。

市ヶ谷にある陸上幕僚監部において勤務していると、多くの先輩・後輩との接点を見いだすことができる。クラブ名をいえば、やはりある種の親近感を持つことができ、ある意味では、話がスムーズに運ぶことがある。監理部で業務計画・予算担当者として勤務した時は、防衛部の主務が長距離パートの本松であり、非常に仕事がやり易かった。今後とも、陸上競技部OBとして何か役立つことがあれば実施して行きたいと思う今日この頃である。



50周年に寄せて

30期　米津浩幸

30期生が防大の入校式を迎えたのは、桜が満開の日でした。爾来４年間、防大のグランドを汗し、記録に一喜一憂し、同期、先輩、後輩とともに飲み、互いの目標について語りあいました。

２年生時　箱根駅伝　12位（11位まで本戦出場）

３年生時　関東理工系　優勝

４年生時　関東理工系　２連覇

と実に充実した４年間でした。個人的にも、十種競技（関東インカレ２部　２連覇）にある程度の成績を収めることができました。当時は、川畑先輩（11期）山根先輩（11期）堀口先輩（23期）西山先輩（24期）研究科学生の先輩等いろんな方が支えてくれました。30期20名の誰もが、充実した日々４年間を過ごせたと思います

４年間の最後の日、卒業式は、京浜急行が運休するほどの大雪でした。入学式と併せ実に印象深い４年間を過ごす事ができました。

いま、30期生は自衛隊、民間等あらゆる場で活躍しています。小原台のタータントラックの上を共に汗した仲間たちは今でも貴重な財産であるとともに、現在、仕事をしていく中での支えとなっています。

（主将　米津）

副将（長距離責任者）　諏訪　敏久

「防衛大学校時代の陸上（長距離）生活は、私の貴重な財産」です。先輩・同期・後輩と箱根駅伝参加という目標に向かって汗を流した時代、今振り返れば私が一番輝いていた時かもしれません。

任官後も、この陸上経験（強み）のおかげで、初級幹部から中級幹部まで、持続走そしてスキーの場を通じて隊員と同等に汗を流すことができたと思っています。そして、最近では、持続走訓練隊の隊長・陸上経験者として、若手隊員と接してきました。走っていたときも、応援・指導する立場になったときも陸上競技は、私の財産です。

副将（短距離責任者）　俵阪　誠

防大生活４年間はクラブ活動に明け暮れ、毎日毎日が自分との闘いであった。毎日の練習は苦しかったけれど、みんなとともに練習したあの４年間は、苦しくつらい以上に大変貴重なものをいろいろと得ることができたと思う。本当にいい思い出である。防大陸上部、万歳！





関東インカレ（二部）
十種競技　二連覇



冬の練習は
きつかった



練習の成果です



７大学対抗後の４×４００ｍ
リレーメンバー



冬の練習を終え、つかの間
のリラックス



昭和６０年の長距離
パート夏合宿